

11 あさい こうじ 浅井 孝司(北海道美唄市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
きたげんき	6.4ha	743kg/10a	253kg/10a(490kg/10a) [*]

※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 家族2人(本人、配偶者)で経営する専業農家。
- 米・小麦・大豆の複合経営。

【作付品目】

- 飼料用米:きたげんき 6.4ha
- 小麦:きたほなみ 4.6ha
- 大豆:スズマルR 6.9ha



【取組のきっかけ】

- 地元JAからの勧めもあり、平成27年産から多収品種「たちじょうぶ」で飼料用米の取組を始めた。



【取組概要】

- 平成30年産の作付品種は、耐倒伏性・耐冷性を考慮し、「きたげんき」に変更。「たちじょうぶ」に比べて登熟が早く、黄化率85～90%以上で刈取可能で収量UP
- 栽植密度を慣行23～24株/㎡から19～20株/㎡に減らすことで、育苗箱数を減らし生産コスト低減と省力化に努めている。
- 除草は、通常、雑草の発生に合わせて複数回除草する体系処理を行っているが、初中期一発剤1回(田植から約1か月の間に1回)の使用で雑草を抑制し、省力化を実現。
- 病虫害防除は、通常4回のところ、本田防除で出穂前にいもち病と殺虫の混合剤1回のみを無人ヘリコプターにより施し、省力化。
- トラクター、コンバイン、乾燥機は「中村共同施設利用組合」で共同運用し、作業効率の向上及びコスト低減を実現。
- 地域の取組として、稲わらの全量を粗飼料として畜産農家に供給し、耕畜連携に取り組んでいる。

12 しみずがわ 合同会社 清水川(鳥取県西伯郡南部町)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
北陸193号	4.1ha	772kg/10a	249kg/10a(523kg/10a) [*]

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 清水川集落の地域農業を皆で支えていくため、平成20年に集落営農組織を立ち上げ、平成30年に日本酒醸造・販売事業参入を契機に法人化。
- 代表者 代表社員 庄倉三保子
- 構成員 清水川集落の農家9戸

【作付品目】

- 主食用米
ひとめぼれ、コシヒカリ、きぬむすめ、古代米サヨムラサキ等 5.3ha
- 飼料用米
北陸193号 4.1ha
- そば 0.2ha



【取組のきっかけ】

- 飼料用米の交付金によって経営の安定化が図られることを期待し取組を開始。町内で「南部町飼料米生産集団」を形成し、作業の集約や県普及所の勧めによる多収品種「北陸193号」の導入、種子生産や栽培技術の向上に取り組む。



【取組概要】

- 平成23年産から多収性に耐倒伏性に優れ、当地域の環境に適している「北陸193号」を導入し、主食用米との作期分散を図っている。この品種は脱粒性が高く、翌年の圃場で出芽することから飼料用米圃場を固定することでコンタミ防止を徹底。
- 生産コスト低減を図るため、南部町飼料米生産集団を形成し、①播種・育苗、乾燥・調製といった作業を集約することで施設・設備費、資材費、労働力を低減、②鶏糞堆肥の導入と、追肥に安価な単肥(尿素)の使用によって肥料費を低減、③緩効性肥料の側条施肥と除草剤の移植時同時散布により労働力を軽減、④実需者へ直接フレコンで出荷することで包装容器代及び運搬経費の削減、等の取組を実施。
- 南部町飼料米生産集団として、県普及所と連携し「北陸193号」の試験栽培を実施し、当該品種の栽培指針「稲作こよみ」の基礎データ作成を担うとともに、多収栽培技術の更なる向上を目指して意欲的に取り組んでいる。また、JA等と協力し当該品種の作付拡大を目指して、農研機構の利用許諾権を得て「北陸193号」の種子を生産し、地域内外へ供給。